

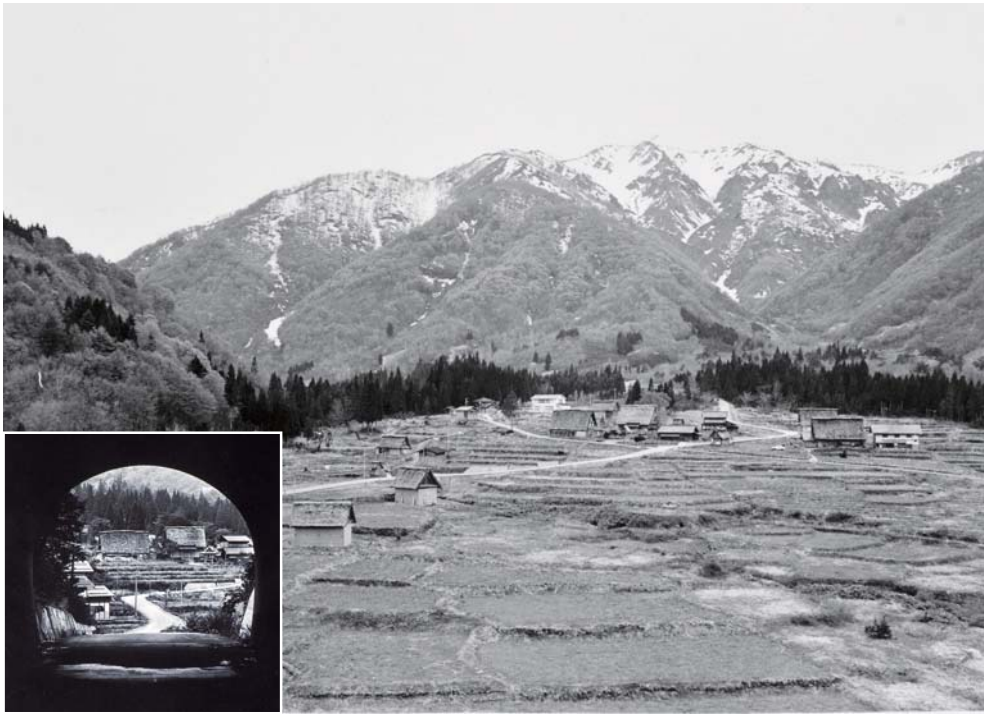
白川郷の合掌造り



第16号

平成26年3月31日

発行 (一) 世界遺産白川郷合掌造り保存財団
岐阜県大野郡白川村荻町
2495番地の3



昭和50年頃
トンネルから馬狩集落

昭和50年頃の馬狩集落

私が最初に白川郷を訪れたのは、一九七二年（昭和四十七年）の九月でした。名金線の急行バスが一日に二本しかなく、名古屋から五時間近くかけて来村しましたが、初めて合掌造りを目にしたときの感動は今でも忘れられません。同時に、この素晴らしきイロケーションの中に立つ合掌を守らなければと痛感したものでした。

豊かな自然と合掌造りに魅了され、写真が趣味の私は丁度時期を同じくしてオープンした合掌村へ毎日通い、夢中で写真を撮りました。当時は今のようには観光が盛んではなかったのに、宿泊場所を探すのにも苦労しました。今では民宿も有

大好きな白川郷と四十年

白川郷ファンクラブ

代表 藤井 薫

る程度の数を数えますが、当時は数軒のみで、さらには片手間営業という感もあり、予約の電話をしても休業だと断られました。困り果てて役場の方に相談すると、直前に一度断られた民宿で泊めさせてもらえることになったことも、今では懐かしい思い出です。

何日かして、お土産を買いに荻町バス停近くの木村商店に立ち寄った時、店主の木村達郎さんから馬狩・大窪地区の集団離村の話の聞ききました。すぐに馬狩・大窪を訪れ写真を撮影していたところ、「わりゃー、お茶でも呼ばれんかい」と声をかけられました。それが、大窪の地に最後まで残ることになった大杉鶴平翁との最初の出会いでした。その時は「こんな雪深い山奥で一人で生活は出来る訳がない、どこかの地域と生活共同体を作るはずだ」と思いました。白川郷に魅了されたのは勿論のこと、大杉家の行方が気になったこともあ

り、私はその後も仕事の休みを見つけては白川郷に通い続けました。特に雪の多い二月には、毎年お土産と食料を背負って大窪を訪れました。何度か冬が過ぎた頃、すっかり鶴平翁とは親しくなっていました。雪が深々と降るある夜、鶴平翁はたばこの煙を燻らせながら「藤井さん。わりゃ、来年山を降りるぞ。将来白川村は観光でしか食べていけん。わりゃ、わしに代わって白川村の将来を見届けてくれ。」と少し寂しそうな声で私に言いました。

その翌年の一九八二年（昭和五十七年）、鶴平翁は亡くなりました。その言葉を胸に、翌一九八三年の春、民宿『大杉』や民宿『孫右衛門』に宿泊していた人たちの中から、「白川郷の自然が好き」「白川郷の人々が好き」「白川郷の文化が好き」という三十六名が集まり『白川郷ファンクラブ』を結成しました。私が代表に、岩崎光二さんに山梨支部長を務めて頂くことになりました。そして、当時合掌村（緑地資源開発公社）の書記をしていた山田講一さん（その後世界遺産白川郷合掌造り保存財団の事務局長）に

ファンクラブのことを話すと、「それは良い。会員はこの合掌村の住人ということには如何ですか」と提案され、会員証は『白川郷合掌の里人証明書』として発行することになりました。

その後、一九八三年に合掌村が合掌の里に名称変更をするときに会員の『小島三樹写真展』、一九八七年には、『大杉鶴平翁顕彰碑』建立に参加や私の写真展『白川郷に生きる』、一九九〇年には、『白川郷ファンクラブの集い』、一九九一年には、村の子供たちを集めて『親子凧作り教室』、一九九二年には、合掌の里で永野良雄会員の『ふれあい凧展』や『白川郷ファンクラブ十周年の集い』を開催してまいりました。観光客が増加してきた頃には、ゴミの持ち帰りを促す観光案内図を三万五千部配布する活動を行いました。

このように三十年にわたり白川郷ファンクラブを運営してきましたが、



白川郷獅子凧

その間も白川郷の将来や合掌家屋の保存については、多くの方々と議論してまいりました。特に、山田講一さんは、合掌村で初めてお会いした時から、職場だけでなく山田さんのご自宅に押し掛けては二人で夜が更けるのを忘れて議論したものでした。振り返ってみますと、合掌家屋の保存について、役員職員の松古等さん、合掌保存会の西野機繁さん、荻町の自然環境を守る会の板谷静夫さんをはじめ多くの方々とお話しできたことは、今では忘れられない楽しい思い出です。

合掌造りの保存は難しい問題ですが、特に重要な点は合掌所有者の後継者の確保、合掌を守っていくこうとする意識の再確認、保存のためのバックアップ体制の確保の三点ではないかと思えます。

第一に後継者の確保のためには、この村で生涯暮せるといふ環境づくり、つまり、生活基盤の確保が必要で、減少しつつある人口の増加や雇用の確保がとて重要だと思えます。

次に、所有者のみならず村民の皆さんの保存意識の再確認が必要だと思えます。一九七〇年頃から始められたデイスカバージャパンによる個人旅行の増加、一九七七年の白山スーパールイン道の開通、その後の世界遺産の指定や高速道路の整備によ

り、これまでは大きな努力をしなくても観光客が増えてきましたが、そのピークは過ぎたように思われます。こどもう一度、合掌の存在価値を見直し、民宿も物産店も、それぞれが一企業として、より一層の努力をしていくことが必要となるでしょう。

最後に保存のためのバックアップ体制の確保ですが、一昔前まで保存は自費が当たり前でした。近年、屋根の葺き替えや軸組み修理には国・県・村からの補助金が出るようになり、その経済的負担は大分軽くなりました。しかし、今後とも今以上の補助は勿論のこと、皆で守っていくという体制が必要だと思えます。これには、現在よりも細かな補助体制の確保が必要で、

今後は財団の存在が重要な位置を占めることになるでしょう。

この約四十年の間に、白川郷が大好きだというたくさんの方々との出会い、でも稀有な伝



昭和50年頃の大窪



昭和50年頃の大杉家の人々

統集落を守るため、また、あの時私が受けた感動を未来の多くの人が感じられるように、白川郷の今後を仲間とともに見守り続けていきたいと思えます。

せせらぎ駐車場

平成25年度 10万台のお客様に感謝！

1月24日(金) せせらぎ駐車場の平成25年度利用台数が、10万台を突破しました。

10万台目を達成したお客様は神奈川県相模原市からお出での鈴木竜太さんと勝木亜美さん。遠路ありがとうございました！



荻町集落の景観保全をお手伝い！

休耕田のさつまいも収穫

10月7日(月) 白川小学校2年生の児童がさつまいも掘り作業を行いました。

この畑は集落内の景観保全を目的に休耕田を利用し



白川小学校2年生より さつまいも掘りのお礼

て作っており、児童たちは職員から景観を守る大切さを学んだ後、一斉に芋掘りを行いました。

6月には苗植えも行っており、葉っぱの成長におどろきながらも、全部で270個のさつまいもの収穫が出来、恵みの秋を満喫しました。

水田協力隊 小林優希さん

5年生の時に白川小学校で田作りにかかわり、6年生になっても田作りにかかわりたい！という思いから、御家族で財団の田作りを手伝ってくれました。大人顔負けの手作業でとても助かりました。



平成25年度 文化財修理報告

白川村教育委員会 松本継太

◆鈴口正夫家 伝建No.83

建物の規模（本屋）

桁行	12.26 m
梁間	9.3 m
建築面積	162.62 m ²

◆鈴口家の概要

鈴口家（屋号源作）は本屋が桁行六・五間、梁行五間の合掌造り民家である。現御当主の奥さんからの聞き取りによると、この家は初代源作の時代には鳩谷の山本家から譲り受けて移築したもので、当時学校としても使われていた話もあるという。現所在地への移築時期については初代源作が嘉永5年生まれの人であるので明治の初め頃に移築されたと考えられる。移築前は建物の妻側を入口とした妻入の合掌造りであったという。

◆建築当初の間取り

鈴口家は移築後、昭和49年に民宿を始める際に南側下屋のシタミンジャ、チヨウズバと本屋の土間部分のマヤ、ミンジャを改修し部屋や台所にしたり、棟通り筋を間仕切って中廊下を設置するなど民宿経営のための改修をされている。その後昭和60年に北側落屋

の改修などを経て現在に至る。

今回修理時の痕跡調査を行った結果をもとに間取りを復原すると図4の通りになる。棟通り筋で表裏に分け、建物北側に仏間を下屋で張り出して上手とし、表側上手から一間半のデエ、二間のエンノマ、一間の玄関、二間のマヤ、裏側上手から一間半のチヨウダ、三間のヒナタ、二間のミンジャとなり、ミンジャ、マヤは土間であった。

この家の一番の特徴はデエーチヨウダ堺間仕りは棟通り筋、エンノマーヒナタ堺が棟通り筋より二尺八寸正面側に



図1：修理後の鈴口家住宅

ずれ、さらにマヤーミンジャ堺が棟通りより背面側に三尺ずれており、全ての部屋境間仕切りが食い違っていることである。通常は棟通り筋で間仕切りが通っていることが多い。理由は分からないが移築以前妻入りであったことが関連するのか。今回の修理ではマヤー便所境の壁については解体しなかったため妻入出入り部分の柱痕跡を確認することはできなかった。

構造的な特徴としては正背面両側にチヨウナ梁が架けられ正背面共に側柱筋より三尺入った入側柱筋の下屋部分を本屋に取り込んで部屋を広くとっている。

◆破損状況

今回の修理を行うきっかけとなったのは床の垂下である。主にヒナタのミンジャよりの床板が床下の湿気により垂下が酷かった。鈴口家の裏側には池があり、地面は地下水位が高く常に湿気が帯びた状態で背面側柱一本の根本が腐朽し沈下していた。また、ヒナタの梁間に架けられた大引が白蟻被害を受けており部材断面の半分以上えぐれていた。また、現状仏間正面の差し鴨居が白蟻により空洞化していた。



図2：修理前



図3：修理後

修理概要

修理は床組解体後、足固め天端レベルで柱の沈下状況を調査後不陸補正の基準レベルを決定し不陸補正及び建て起こしを行った。今回の工事では便所台所の落屋部分の工事は行わないため落屋部分に影響を与えない範囲で工事を行わなければならない建て起こし及び不陸補正も落屋レベルを基準にする必要があった。蟻害を受けた大引きは腐朽部分を切断し既存材種の栗材による根継修理をおこない、差し鴨居は再利

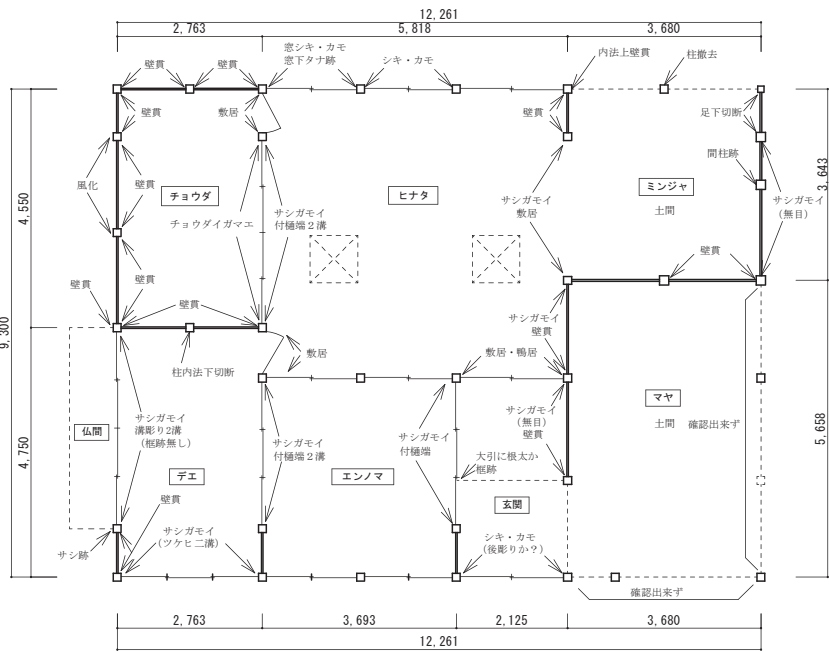


図4：推定復原図（復原部分に関わる痕跡を明示）

※部屋名は移築後の呼び名

用不可能と判断し取替えた。腐朽柱の根元は金輪継ぎによる根継修理を行い、傷んだ根太材及び足固め貫の取替も行っている。

鈴口家は古い合掌造り

鈴口家の建築年代が分かる資料は残されていないが、年代が古い特徴をいくつか持っている。まずは差鴨居の下端の建具溝が桶端打ち付けの付溝になっていることである。これは彫り込み溝の場合よりも古い形式である。また、ヒナターチヨウタ境に一段高い位置に敷居が入っていた痕跡が残されており「チヨウダイ構え」があったと考えられる。奥さんの記憶でも子供の頃はチヨウウダにまたいで入った記憶があると話されている。この「チヨウダイ構え」も古い家の特徴の一つである。

最後に「ウシ梁」が無くエンノマ―ヒナタ境に間仕切りが設けられていることである。「ウシ梁」は通常棟通り筋の大黒柱



図5：蟻害を受けた大引

とマヤ境柱に桁行に架けられる大きな梁で、梁間に架けられるチヨウウナ梁を受けて間仕切り柱を省略するために架けられる。鈴口家では正背面に架けられるチヨウウナ梁を柱で受けているためエンノマ―ヒナタ境が間仕切りで仕切られている。萩町の松古家

とマヤ境柱に桁行に架けられる大きな梁で、梁間に架けられるチヨウウナ梁を受けて間仕切り柱を省略するために架けられる。鈴口家では正背面に架けられるチヨウウナ梁を柱で受けているためエンノマ―ヒナタ境が間仕切りで仕切られている。萩町の松古家



図6：修理後の室内

には現在ウシ梁が架けられていてチヨウウナ梁を受ける当初間仕切り柱を撤去しているが前回修理時の調査でウシ梁が後から入れられた物であることが分かり、間仕切りを撤去し広間を作りたいためにウシ梁を入れたと考えられる。このことから棟通り筋のウシ梁、間仕切りの有無は「間仕切りを撤去するためにウシ梁を入れるようになった」という合掌造りの構造成立過程の前後関係を知る判断材料となりうると言える。よって鈴口家はウシ梁があるものよりも古い形式を持っているということになる。

建築年代は伝建台帳では19世紀前期ということになっているが、これらの特徴を鑑みると18世紀末まで遡る可能性もあり鈴口家は古い合掌造りの遺構として重要な建物である。

財団が管理する村営駐車場

平成二十五年度の入り込み

せせらぎ駐車場は普通車が年間入場数十万台を超えたのは、東海北陸自動車道が全線開通した平成二十年度のことです。その後は年々減少していきましたが平成二十四年度に再び上昇、その勢いは二十五年度も続き年間入込は二十年度を追い越し十一万台強（前年比百二十%）となりました。もちろん過去最高の入込です。四月～十一月間の一日平均入込は約三百七十台、八月だけみると毎日六百五十台平均で普通車が入場、常にパンク状態でした。観光車両の集落乗入自主規制や民間駐車場の減少がダイレクトに影響していると思われませんが、個人旅行者が増加しているのも事実で、特にレンタカーの増加は顕著であり、外国人ドライバーも多く見受けられました。来春北陸新幹線が金沢まで延長されると益々関東方面からの観光客が増加し、せせらぎ駐車場は常に飽和状態となること予想されます。

バスの入込はここ二年ほど落ち着いていましたが今年度は増加に転じ一万八千三百台（前年比百十二%）となりました。外国人バスツアー客は相変わらず多いですが、最近では西洋系の方も目立って増えてきました。今後も世界中からバスツアー客が集まるとなると、現在バスを受け入れる駐車場はせせらぎ公園のみですので、バスブースの確保が必須となり、敏寄せで普通車ブースがますます狭くなります。

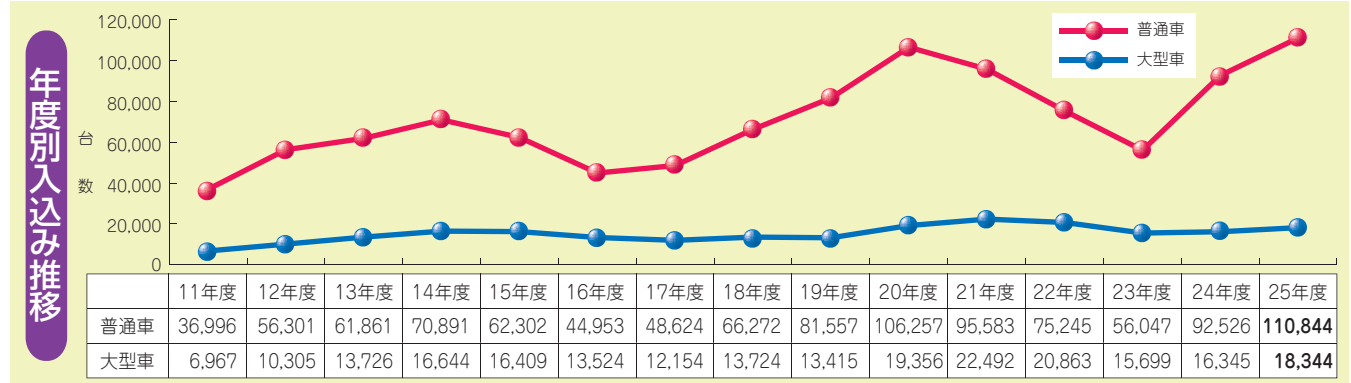
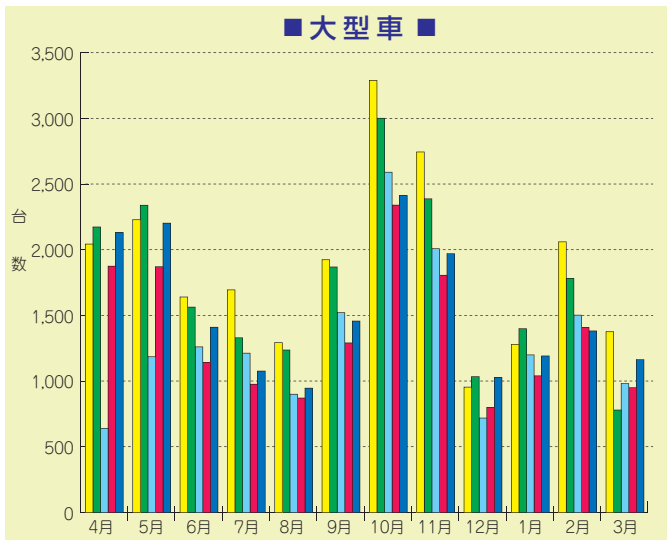
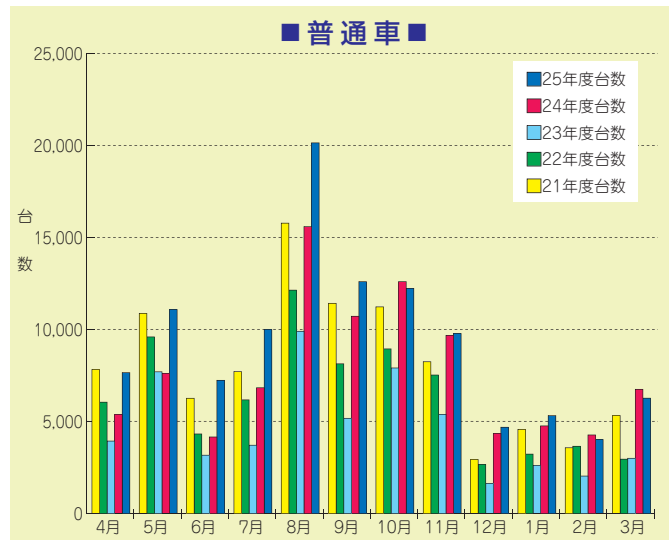
せせらぎ駐車場は、季節により変動

はありますが概ね普通車が五百台を超した時がパンクする目安となります。過去のデータ等から溢れることが予想される日は、みだしま公園駐車場を稼働させます。二十五年度は年間九十九日料金徴収を行いました。年間入込は二万台強、一日平均台数は二百台強となっています。

大渋滞が予想される日にはさらに寺尾駐車場を稼働させ、交差点に警備員を配置して誘導します。二十五年度は二十九日間準備を行い、内二十六日料金徴収を行いました。総入込数は一万三千七百台、一日平均五百二十台を受け入れられました。総入込数は前年度とほぼ同数ですが、前年度は三十四日間稼働して一日平均三百八十台だったので、経費削減の努力にはつながりましたが根本的な解決にはなっていないです。

この四月からは荻町集落内乗入自主規制の本格実施が始まります。交通対策委員会及び地域住民による交通対策計画を基本に、今後も財団は渋滞解消に努めるべく取り組んでいきたいと思

平成21～25年度 せせらぎ公園小呂駐車場月別入込台数比較



年度別入込み推移

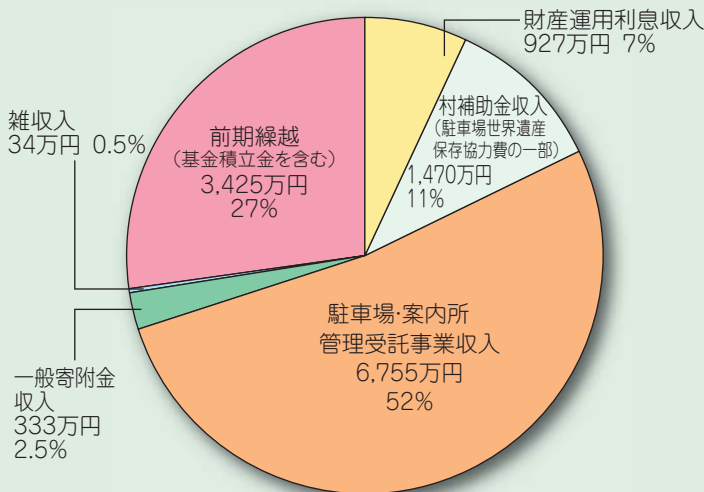
…一般財団法人世界遺産白川郷合掌造り保存財団…

平成25年度

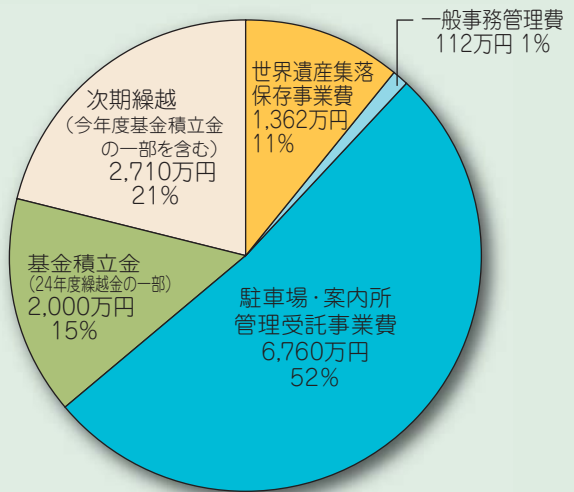
会計のあらまし

財団が、どのような収入を得て、どのように支出しているのか、平成25年度の会計状況をお伝えします。

歳入 1億2,944万円



歳出 1億2,994万円



平成25年度の主な事業

1. 修理事業	4,673,000円
差し茅	9棟 1,158,000円
伝統的建造物修理	3棟 534,000円
棟茅葺替	81/108棟 2,907,000円
トタン屋根葺替	1棟 74,000円
2. 修景事業	3,758,155円
修景協力費助成	16棟 3,119,000円
トタン屋根葺替	4棟 419,000円
ビニールシート指定色奨励事業	46枚 115,610円
一般建築物茅屋根補修	1棟 28,000円
オダレ助成	18枚 76,545円
3. 地域活性化事業	1,041,375円
自治保存会活動費助成	1,000,000円
人材育成事業	41,375円
4. 水田復旧事業	1,865,081円
復旧農地の維持管理・活用	水田63.10a、畑0.7a 1,865,051円
合計	11,337,611円

財源内訳

村補助金	11,000,000円
基金運用利息	337,611円
合計	11,337,611円

財団は今年度一般財団法人として新たにスタート致しました。特例民法法人であった頃の税的優遇はなくなり、一般企業と同様に自主財源を確保しながら公益事業を行うこととなります。当財団は設立当初から村営せせらぎ公園他の駐車場及び総合案内「であいの館」の指定管理業務を受託しており、これらの運営管理を行いながら、世界遺産集落を保全するための公益事業を行っております。職員の人件費等主な経費は受託費で賄われており、駐車場が盛況な間は財団の運営も良好であるといえます。

せせらぎ駐車場では利用客から駐車場利用料（普通車300円・大型車2000円）、世界遺産保存協力費（普通車200円・大型車1000円）の二種類を徴収しています。これらの収入は一旦財団からすべて村に収められます。

そのうち駐車場利用料はせせらぎ公園及び駐車場の維持管理費に当てられ、一部は駐車場・総合案内管理受託事業費として財団の歳入となります。世界遺産保存協力費は世界遺産地区の保存のために使われます。こちら一部が村から事業及び運営費補助金として財団に入ります。これは財団の主目的である世界遺産集落保存事業を遂行するための大切な収入源となっております。平成25年度のせせらぎ公園小呂駐車場の総収入は、駐車場利用料約6,866万円（昨年比960万円増）、世界遺産保存協力費約4,167万円（同573万円増）となりました。同様に寺尾駐車場及びみだしま公園臨時駐車場で徴収された駐車場利用料1,734万円をあわせて村に納付させていただきました。駐車場、案内所管理受託事業費として6,755万円、集落整備事業及び運営費補助金として1,470万円を村からの収入とさせていただきます。

財団が保有する基金は約6億7,793万円、25年度は926万円の利息となりました。財団の貴重な自主財源として集落保存事業を中心に活用しています。

財団が保持している基金の現在額(平成26年3月)

基本財産	302,361,000円
運用財産	375,575,644円
合計	677,936,644円



募金ご協力者一覧 (敬称略)

平成25年度

千葉県	乗越 隆司	岐阜県	有限会社高山観光写真サービス
埼玉県	細谷 恵子	〃	三輪 高史
東京都	南 久栄	〃	(株)三輪酒造
神奈川県	北村 秀雄	白川村	田口 伸永
〃	小野 剛	〃	(有)ひだ白川郷かたりべ
〃	古谷 義幸	〃	白川中学校生徒会 (茅刈り活動)
静岡県	石原 正美	富山県	高田 宗明
愛知県	大森 國雄	滋賀県	(株)文教スタジオ
〃	河合 銀一	〃	一圓 泰成
〃	森 顕敏	和歌山県	石田 真紀
〃	北條 正典	大阪府	長 久男
岐阜県	熊崎 孝子	兵庫県	西本 照也
〃	早川美和子	広島県	木原 幹夫
〃	(株)飛騨企画販売		

竹筒募金

国重文 和田家/ふる郷 長瀬家/神田家/明善寺郷土館/民宿 十右エ門/民宿 きどや/民宿 ふるさと/民宿 久松/民宿 利兵衛/民宿 幸エ門/民宿 与四郎/民宿 源作/民宿 太田屋/民宿 文六/民宿 よきち/民宿 伊三郎/民宿 のだにや/民宿 孫エ門/民宿 志みづ/民宿 かんじゃ/トヨタ白川郷自然学校/民宿 一茶/民宿 わだや/旅館 城山館/白川郷の湯/土産 こびき屋/土産 おけさ/土産 山楽堂/土産 佐藤民芸品店/土産 しゃくなげ/土産 山里/土産 一飛/土産 今藤商店/土産 白楽/土産 山峡の家/食事 基太の庄/文化喫茶郷愁/土産 合掌庵/見学 合掌造り民家園/土産 古太神/食事 合掌 森崎/焰仁 美術館/土産 元気な野菜館/団子 いさなみ/食事 喫茶狩人/土産 恵びすや/土産 おいしんぼ/食事 喫茶今昔/白川郷の湯/食事 いろり/民宿 やまもと/たなか屋/土産 ぜん助/食事 手打ちそば処 乃むら/喫茶 さとう/鳩谷郵便局/土産 道の駅白川郷/喫茶 千晴/いっぶく ちな/食事 白水園/食事 飛騨路/盛善/食事 ます園文助/土産 めめんこ/城山 天守閣/食事 与ぜ/お食事処 忠兵衛/食事 しらおぎ/喫茶 鄙/あらい食堂/食事 味処ゆきんこ/団子 ちとせ/どぶろく祭りの館/総合案内であいの館

世界遺産白川郷合掌集落保存基金にご理解とご協力を

合掌財団では世界遺産集落の景観保護を行うため、合掌造り家屋の修理に対する助成や合掌造りを取り巻く全ての建物が農村風景に影響を与えないような修景に対する助成等を中心に、集落に暮らす住民の生活により密着した事業展開を心がけております。

それらの経費を賄うには、合掌財団のわずかな基本財産の運用益だけでははるかに及ばないのが現状です。現在はそれを補う窮余の策として岐阜

県の助成を得て、白川村が緊縮財政の中から捻出しています。今後の社会情勢の変化に伴い、合掌財団に対して要請される事業がますます多様化していくものと予想されます。合掌財団がこのような課題にできるだけすみやかに、的確に対処していくためには基本財産をより充実させ、運用できる果実をもっともっと増やさなくてはなりません。どうか合掌財団の趣旨にご賛同くださり、皆様の暖かいご支援、ご協力をお願いします。

振替による場合

基金に対する
ご寄付お送り先
及び資料請求先

- ・郵便振替口座 00810-6-51954
- ・飛騨農業協同組合白川支店(普) 9203800

現金書留による場合及び資料請求先

〒501-5627 岐阜県大野郡白川村荻町2495-3
(財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団
TEL(05769)6-3111 FAX(05769)6-3113
☆インターネットでも受け付けています。
<http://shirakawa-go.org/kikin.html>

編集後記

今回の巻頭記事は、白川郷ファンクラブの代表である藤井薫氏にお願いしてファンクラブ発足の歴史と、白川郷の現状及び未来に対する熱き思いについてご執筆頂きました。藤井氏は年に何度も白川郷を訪問されていますが、その際は必ず財団事務所にも立ち寄られ、外部の目線ではわからない集落の微妙な変化などについても逐一指摘してください。白川郷という一地域に対してファンクラブが存在し、外部から温かくそして時に厳しく見守っていて下さるということは、この地域を未来に向けて守り育てていかねばならない私たちにとって大変心強い存在です。

現在、白川郷は藤井氏のような熱烈なファンを獲得できているのでしょうか。交通事情の変化などにより毎日多くの観光客が訪れてくださいますが、私たちの交通対策などの取組が世界遺産環境の保全を最優先にするあまり、観光客に対し深い感動を覚えてくださるような体験を提供することが疎かになっていないか、振り返って考えることが必要かもしれません。

財団が一般財団法人となって最初の年ですが、事態は刻々と変化しています。これからも内なり外なり様々な情報を取り入れながら対処していきたいと思えます。